

一年でいちばん好きな日は、たぶん①大晦日（

）だと思う。作家の津村

記久子さんがエッセーにそう書いている。お正月はとても楽しい。けれども2日はもうただの休みだし、3日なんか明日から会社かと、げんなりする▼しかし大晦日は違う。「待つ」ことの楽しさが②ギョウシユク（

）されているのだ。「≪A ≫

新しい年になるだけだ。三十数年も生きると、≪B ≫新しい年になって何か③ゲキテキ（

）に変わるといことがないのも知っている。（D

（1）待つことそのものを味わうのだ」▼家の④ソウジ（

）をし、お正月の買

い物をし、年賀状を書く。そんなこんなをこなして⑤ムカ（

）える、何げないひ

ととき。新年を待つだけの不思議な⑥シユンカン（

）である▼人間には、（2）

二通りの時間の感じ方がある。一つは、未来に向かって直線に進んでいく時間。≪C ≫一つは、毎年毎年、循環する時間である。「直線」の感覚からすれば、

新年は通過点にすぎない。（E

）「来年あるかも」ということを一つか二つ、思い⑧描（

）いてみるのはどうだろ

う。「恋人が現れるかも」「孫ができるかも」「有名人にどこかで会うかも」……。③（3）目標ではなく、待っているとやってくるかもしれない良いことを▼⑨ジョヤ（

）の鐘は「ごくろうさん」にも、「ほらもう寝なさい」にも聞こえと、津村さんは書

いている。うきうき、そわそわとも違う。かといって⑩ゲンシユク（

）という

ほどもない時間である。どうか良いお年を。「2018年12月31日「天声人語」

問一 ①～⑩のカタカナ部は漢字に直し、傍線部は読みを書き入れなさい。

問二 各段落を20字以内で要約してみよう。

第一段落：（

第二段落：（

第三段落：（

第四段落：（

第五段落：（

第六段落：（

問三 ≪A≫ ≪C≫に適する副詞を次から選んで書き入れよう。

問四 ≪D≫ ≪F≫に適する接続詞を次から選んで書き入れよう。

問五 傍線部（1）は何を待つのか、文中の2字で答えよう↓（

問六 傍線部（2）を文中からそれぞれ17字と11字で抜き出そう。

問七 傍線部（3）の具体例を2つ、それぞれ30字程度で書いてみよう。

（